

二松學舎 松苓会報



CONTENTS

- P2 創立 140 周年を迎えて 理事長 水戸英則
- P3 平成 29 年度松苓会定期総会
- P7 松苓会支部活動報告
- P13 卒業生だより
- P15 大学だより
- P17 教員免許状更新講習
- P18 発足 20 年を経た国際交流センター
- P19 恩師からの便り
- P20 会員からの便り
- P23 二松學舎創立 140 周年記念事業
- P24 附属高校野球部甲子園出場
訃報 編集後記

No.58

2017年9月25日

二松學舎創立140周年を迎えて

「今までの140年、これからの140年」



二松學舎
学校法人
理事長
水戸 英則

年国語科教員を養成する専門学校設立、同6年同校同窓会である松苓会の発足の後、同24年、二松學舎大学に転換し、現在は、同附属高等学校、同附属柏中・高等学校の1大学・2高等学校・1中学校を設置する在籍総数約4700人を擁する学舎に発展しています。

二松學舎では2012年（平成24年）、創立135周年を期にグローバル化、知識基盤社会化の進展などの環境変化に対応し、教育研究・経営面双方の多角的な改革を行うため、長期ビジョン「N:2030 Plan」を策定、多くの成果を挙げて参りました。

二松學舎は、漢学者三島中洲先生（以下中洲）が、1877年（明治10年）10月、現在の大学九段1号館の建つ地に「漢学塾 二松學舎」を創立したのが始まりで、本年10月、創立140周年を迎えます。

本学創立時、明治政府は欧米等先進文化を取り入れるなど、西洋学華やかな時代の中、中洲は、西洋文明の進んだ部分を摂取するには、まず東洋の文化を学び、日本人の真の姿を知ることが重要であると考え、漢学を若者たちに教授することで、真に役立つ人材の育成を目指しました。創立以来、犬養毅、嘉納治五郎、夏目漱石、平塚雷鳥など多くの有為な人材を送り出し、その後、昭和3

学生支援の徹底、父母会・松苓会との連携強化、九段3・4号館の建設やラーニングコモンズの設置等キャンパス整備など、大きな成果がみられたところです。

ただその後、私学を取り巻く環境は激変、すなわち、18歳人口が急減する「2018年問題」の到来、2019年度からは「実践的な職業教育を行う新たな大学の設置」による競争の激化、地方創成、東京一極集中是正のため、23区内私立大学の定員増の禁止等、新たな制約条件が加わりました。さらに、今後はAI・IoT・ビッグデータ等第四次産業革命の進展等を背景に、10〜15年以内には現存する職業の5割以上が消失するとの予測も出てきております。

こうした状況の激変と予測が極めて困難な時代において、本学の使命を今後とも永続的に果たし続けていくため、二松學舎構成員にとって達成すべき新たなチャレンジすべき共通の目標が必要であると考え、新長期ビジョン「N:2030 Plan」を策定し、2030年に向けた本学全体の

進むべき指針とすることとしました。本プランについては、「N:2030 Plan」の基本方針である5つの基本理念、建学の精神に基づいた人材育成方針は引き継ぐことを決定、役員・教職員、学生・生徒など全ステークホルダーから、300件以上に上る「将来の二松學舎像についてのご意見・提言」を多数頂き、それを基に策定したものです。策定に当たり、2030年の我が国の置かれた人口動態や経済状況等マクロ環境、文部行政の方向性、さらに就業行動等職業体系を展望し、2030年において求められる能力である「知識、スキル、人格」の三位一体の教育を進めることを中心に据えております。また、PLAN全体の進捗度を明らかにするため、各設置校についてベンチマーク（目標）校を設定したほか、学校運営上の主要指標をKPI（重要業績評価指標）として定め、これを一覧（Dash Board）で管理、進捗度合を図っていき、計画の着実な履行を進めていくことにしました。

今後本学の建学の精神を元に「これからの140年」を着実に歩んで行きたいと考えており、新長期ビジョン「N:2030 Plan」をその道標として全学一丸となり実現をするため緩まぬ努力を行って参ります。松苓会の皆様方には、本学の大きな挑戦について、引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年度 第22回松苓会定期総会開催

平成29年度定期総会が6月10日（土）13時から二松學舎大学九段校舎1号館11階会議室で開催された。

来賓として五十嵐清常任理事、菅原淳子学長をお迎えして行われた。全国から34支部の支部長（代理出席を含む）が参加した。

出席者は次のとおりである。

来賓

五十嵐清 常任理事

（相談役水戸理事長の代理）
菅原淳子 学長（相談役）



平成29年度定期総会

神津賢一郎（顧問）
本部
廣田克己（会長）

新井喜義・山崎正伸（副会長）

小林公雄（幹事長）

常任幹事

平野光治（神奈川県支部長）

小林憲二・佐藤 修・清水 登

大山由美子・神河秀春・高柳幸雄

菅原義博・高橋映子・志村 孝

助川忠弘

幹事

山崎郁紀（北海道地区）

宮本義孝（岩手県支部長）

辻 将一（千葉県支部長）

小島貴雄（富山県支部長）

武内明德（兵庫県支部長）

平岡才二郎（広島県支部長）

宮崎宣幸（宮崎県支部長）

金城健一（沖縄県支部長）

小林孝彰・持田賢一・金井 康

星野優子・大淵俊明・山口洋子

響谷 昇・山口浩司

監事

畠山幸治・木村誠次

支部長

増井義昭（北海道）・柴垣博孝（青森）

千葉 仁（宮城）・齋藤 裕（山形）

北村 博（福島）・沼田俊明（茨城）

寺内 進（栃木）・小石さち子（群馬）

町田哲夫（埼玉）・矢澤喜成（東京）
植松永雄（山梨代）・坂井福作（新潟）
中道佳宏（福井）・永井陵次（静岡）
松田博文（愛知）・齋藤 衛（大阪）
明治利隆（和歌山）・小谷章公（鳥取）
永瀬 清（岡山）・大倉明子（徳島）
田片博伸（香川代）・上田善達（愛媛）
永淵道彦（福岡）・黒瀬孝志郎（長崎）
甲斐啓一郎（大分）・岡元正昭（鹿児島）
事務局
間宮美喜

総会が高柳常任幹事の司会により、開会が宣言された。続いて前年度総会後に物故された松苓会員及び大学関係者への黙祷があった。

司会から構成員80名中、出席者59名、委任状18名の合計77名で総会が成立するとの報告があり、確認された。

廣田会長の挨拶の後、来賓の挨拶があり、水戸理事長代理の五十嵐常任理事から二松學舎創立140周年記念事業について、菅原学長からは「高等教育をめぐる動向と本学の課題」というテーマでの講話があった。

山崎副会長を議長に選出の後、書記に大淵幹事、山口洋子幹事が指名され、議事録署名人には神河常任幹事、沼田支部長（茨城）が指名された。

◆議案審議

- 1 平成28年度松苓会事業報告
- 2 平成28年度収支決算報告
並びに監査報告
- 3 松苓会奨学金制度の変更（貸

与奨学金から給付奨学金）及び奨学金規程の改正について
平成29年度松苓会事業方針並びに事業計画（案）
5 平成29年度予算（案）

◆諸報告

- 1 松苓会創設85周年記念事業報告
- 2 基本問題検討委員会報告
- 3 法人との連絡協議会について
- 4 平成29年度ホームカミングデーについて
- 5 支部運営等について

議案審議

次第に沿って議案の審議があり、1号議案から5号議案まで異議なく承認された。

3号議案の松苓会奨学金制度の変更は、大学からの強い要望に基づき、平成16年度の奨学金制度創設時の趣旨（卒業単位は取得しているのに学費納入が困難な学生を救済する）の徹底を図り、創設時の給付奨学金に戻す内容。それに伴う奨学金規程の改正案が承認された。

5号議案では、二松學舎創立140周年記念事業に特別会計「周年事業積立金」から500万円寄付する案を含む平成29年度予算案が承認された。周年事業積立金は今年度から積み立てを再開する。

平成29年度松苓会事業方針

二松學舎大学で学んだ学生が、本

学を単なる出身校ではなく、母校であるという思いに至る存在感のある松苓会にしたい。卒業生一人一人を大切に、卒業生のための松苓会とするべく諸事業を推進していきます。

1. 「松苓会報」は、松苓会と会員を結ぶ情報紙として重要な役割を果たすものです。紙面の充実を図るため、会員からの原稿募集など編集委員会で更なる工夫をしています。今年度は、第58号（9月下旬）、第59号（3月中旬）を発行します。

2. 「卒業生交流事業」として、ホームカミングデー、卒業生名刺交換会、教員免許状更新講習受講者交流会を開催します。

ホームカミングデーは、13回目を迎えます。学園祭期間中に交流サロンの開設や卒業生作品展など、実行委員会でも更なる検討を加えて有意義な企画といたします。

卒業生名刺交換会は、昨年度、大学と共催で開催しました。卒業生の異業種間の交流を図り、在学生支援に結びつけていきます。

教員免許状更新講習が母校で毎年実施されています。昨年に引き続き、母校で講習を受講する卒業生に交流の場を提供します。

3. 支部活動等の卒業生支援事業

(1) 支部活動振興のため、次のよ

うな施策のもとに活動を展開します。

①支部助成は、昨年度と同様、支部運営助成費として、支部活動に必要な経費（通信費、総会等開催時の会場費、封筒等印刷費など）を助成します。他に、支部総会開催費として開催支部に2万円、支部分会開催の場合は、1万円を助成します。また、支部報発行助成費として、発行経費を3万円を上限として実費を助成します。

②現在多くの支部が活動停滞状況にあります。今年度も、活動を希望する支部と連携を取りながら、総会等の開催支援を実施します。本年度は福島県、山梨県、栃木県、及び近畿地区の府県を重点地区とします。

③大学が地方で開催する大学説明会等を活用した支部活動の推進を図ります。

本年度は仙台市、水戸市、大阪市での大学説明会が行われます。すでに関係の支部には、この機会を利用した支部活動の展開を依頼しています。が、本部としても積極的に支援していきます。

④支部総会等が未開催のうえ、本部総会欠席が長期にわたり続いている（過去5年位）支

部に対し、引き続き積極的な働きかけを行っていきます。

(2) 卒業生の諸活動（同期会、ゼミ会、サークル会等）に対する助成は、本年度も継続します。助成費は、1団体につき年間1回、1万円。参加人数は、原則として10名以上です。

4. 母校支援事業、在学生支援事業

(1) 二松學舎創立140周年記念事業支援

本年は、二松學舎創立140周年に当たります。母校では、周年事業を進めています。松苓会は積極的にこれを支援していきます。

その一つとして、周年事業記念募金に対し、特別会計「周年事業積立金」から寄付金を贈るための予算措置を講じます。

(2) 松苓会奨学金

松苓会奨学金は、平成16年に給付奨学金として創設されました。平成23年に貸与制度に変更しましたが、大学側からの強い要望もあり、給付奨学金に変更して実施します。

なお、将来の奨学金制度の在り方については、別途、松苓会の全体的な事業、財政の検討とあわせ基本問題検討委員会等で検討していきます。

(3) 在学生教育支援助成
昨年度は寄付講座としてキャ

リア・デザイン講座を大学に提供しました。また、学生食堂100円朝食提供を実施致しました。本年度も大学側からの申請に基づき実施します。

5. 基本問題検討委員会での検討

平成27年度の総会で「基本問題検討委員会の設置」が承認されました。

委員会は、これまで5回開催し、大学側から要望があった貸与奨学金を給付奨学金に変更する件等を検討し、本年2月1日付の中間答申を受け、本年度の総会に奨学金制度の変更を提案し、承認に至りました。本年度は、委員の補充等を行い、松苓会の制度、財政など、根幹に関わる重要事項を検討していきます。

6. 終身会費納入手続きの推進、寄付金募金活動の展開

本年度も、平成13年度以前に卒業した会員のうち終身会費納入手続きが済んでいない会員に対する広報活動を継続して行います。さらに会費納入者に対しては、寄付金募金活動をしていきます。

7. 規程整備

昨年は、松苓会の事務局の事務処理要領を纏め、実施に移しています。引き続き、松苓会の必要な規程整備を推進していきます。

二松學舎松苓会幹事会開催

総会に先立って、幹事会が開催された。本部の三役、常任幹事、幹事、監事の31名（構成員42名）が出席（他に委任状10名）し、総会の議案についての説明と、それに対する審議が行われた。



平成29年度 幹事会

定期総会後の懇親会

恒例となっている総会後の懇親会



懇親会も和やかに

松苓会本部事務局担当

平成24年から事務局を担当していた佐藤修氏（文41）が平成29年3月末で退任し、後任に5月1日付で間宮美喜さん（文83）が着任した。

新任の常任幹事、幹事

（平成29年4月1日付）

常任幹事

佐藤 修（文41）

小林 孝彰（文38）

持田 賢一（文40）

金井 康（文41）

佐久間 敦子（文46）

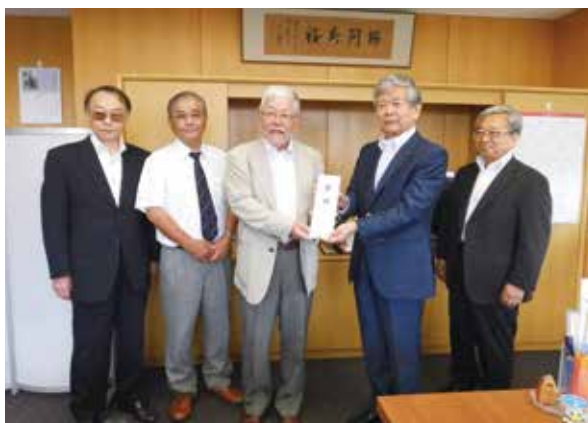
響谷 昇（文56）

は、今年度は学内施設が他団体との関係で利用できず、九段上の中国料理店「小星星」で開催した。総会参加の支部長や本部役員など40名が参加した。地方から出席の支部長にとっては年1回の顔合わせともなり、支部間の情報交換や同期、先輩、後輩と旧交を温める有意義な会となった。

間宮さんは平成27年3月文学部卒。

創立140周年記念事業に寄付目録贈呈

平成29年度予算が総会で承認されたのを受けて、7月25日（火）、創立140周年記念募金に対する寄付金500万円の目録贈呈式を理事長室で行い、廣田克己会長が水戸英則理事長に目録を贈呈した。



法人に寄付目録贈呈

附属高校野球部甲子園出場支援金贈呈

2度目の夏の甲子園大会出場を決めた附属高校野球部を支援するため、8月3日、廣田克己会長が附属高等学校を訪問、本城学校長に支援金50万円を贈った。



廣田会長より本城校長に支援金贈呈

三島中洲師墓参ツアー募集

東京都・神奈川県・静岡県支部共催、松苓会本部後援で「三島中洲師墓参・紅葉・温泉バスツアー」と銘打った企画が行われます。

実施日 平成29年11月26日（日）

集合 小田原駅 9時30分

行程 小田原―富士霊園―長安寺（紅葉、五百羅漢）―ホテルおかだ（昼食・温泉入浴・散策）―小田原駅（解散16時30分）

定員 45名

参加料 6千円

申し込みは、平野光治神奈川県支部長まで、住所・氏名・連絡先電話番号を明記のうえ、次のどれか一つの方法で10月7日までにご連絡ください。

①ハガキ 〒243-0303 愛甲郡愛川町 中津1031-15

②メール tuikarestar0619myh@ttso-net.ne.jp

③FAX 046-285-4793

申し込み締め切り後であっても、定員に余裕のある場合は受け付けますので、平野支部長又は松苓会本部事務局にお問い合わせください。

平成 29 年度 松苓会予算	
平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日	
○ 収入の部	
前年度繰越金	(単位：円) 3,099,709
会費	3,740,000
新卒者終身会費	9,450,000
既卒者終身会費	400,000
小寄附金	9,850,000
雑収入・利息	400,000
合計	4,000
○ 支出の部	17,093,709
事業費	
松苓会報等発行・制作費	1,300,000
印刷・送付費	800,000
「茯苓」発行費	0
小計	2,100,000
卒業生交流事業	
ホームカミングデー費	800,000
卒業生名刺交換交流会費	300,000
免許更新講習会費	100,000
小計	1,200,000
卒業生支援事業	
支部運営助成費	1,500,000
支部報発行助成費	300,000
支部強化等助成費	100,000
支部同小計	100,000
母校支援事業	2,000,000
教育振興資金助成費	1,000,000
教松会奨学金基	150,000
小計	500,000
在学生支援事業	1,650,000
学課教卒小計	100,000
園外活支記	200,000
祭動助成	800,000
助成金	800,000
小計	800,000
運営費	1,900,000
事業費合計	8,850,000
特別会計	
会旅職通備印消慶謝手雑運	150,000
費・務信品刷品	2,000,000
費費費費費費費費費費	350,000
費費費費費費費費費費	150,000
費費費費費費費費費費	250,000
費費費費費費費費費費	350,000
費費費費費費費費費費	50,000
費費費費費費費費費費	100,000
費費費費費費費費費費	10,000
費費費費費費費費費費	50,000
費費費費費費費費費費	20,000
合計	3,480,000
特別会計	
周終特予合	1,000,000
年身別	2,583,000
事会	3,583,000
業員積立	1,180,709
合計	17,093,709

平成 29 年度 松苓会特別会計予算	
1 松苓会基金	
平成 28 年度からの繰越	(単位：円) 2,000,317
利息	12
合計	2,000,329
2 周年事業積立金	
(収入の部)	
平成 28 年度からの繰越	4,756,645
平成 29 年度繰入	1,000,000
利息	500
合計	5,757,145
(支出の部)	
創立 140 周年記念事業に寄付	5,000,000
合計	5,000,000
3 終身会員積立金	
(収入の部)	
平成 28 年度からの繰越	64,735,752
平成 29 年度繰入	2,583,000
利息	6,500
合計	67,325,252
(支出の部)	
終身会員サービス費(会報 59 号発送費 1 回分)	820,000
手数料	864
合計	820,846
4 松苓会奨学金	
(収入の部)	
平成 28 年度からの繰越	6,391,212
平成 29 年度繰入	500,000
平成 29 年度貸与返還金	857,000
利息	60
合計	7,748,272
(支出の部)	
平成 29 年度給付奨学金	930,000

会計監査報告書

平成 28 年度(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

平成 29 年 4 月 25 日

二松學舎松苓会監事 畠山 幸治 ㊞
二松學舎松苓会監事 木村 誠次 ㊞

平成 28 年度 松苓会収支決算書	
平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	
○ 収入の部	
前年度繰越金	(単位：円) 2,163,573
会費	3,725,000
新卒者終身会費	9,690,000
既卒者終身会費	370,000
小寄附金	10,060,000
雑収入・利息	696,000
合計	4,562
○ 支出の部	16,649,135
事業費	
ホームカミングデー費	400,000
松苓会報等発行・制作費	1,203,120
印刷・送付費	711,870
「茯苓」発行費	0
小計	1,914,990
卒業生支援事業	
支部運営助成費	1,367,958
支部報発行助成費	252,065
支部強化等助成費	10,000
支部同小計	40,000
母校支援事業	1,670,023
教育振興資金助成費	1,000,000
教松会奨学金基	100,000
小計	500,000
在学生支援事業	50,000
学課教卒小計	200,000
園外活支記	800,000
祭動助成	781,200
助成金	800,000
小計	1,831,200
運営費	7,466,213
会旅職通備印消慶謝手雑運	137,280
費・務信品刷品	1,990,841
費費費費費費費費費費	304,000
費費費費費費費費費費	101,758
費費費費費費費費費費	216,044
費費費費費費費費費費	238,810
費費費費費費費費費費	42,230
費費費費費費費費費費	67,922
費費費費費費費費費費	0
費費費費費費費費費費	45,696
費費費費費費費費費費	2,160
合計	3,146,741
特別会計	
周終特予合	0
年身別	2,648,600
事会	2,648,600
業員積立	287,872
合計	13,549,426
○収支残高	3,099,709

平成 28 年度 松苓会特別会計決算書	
1 松苓会基金	
平成 27 年度からの繰越	(単位：円) 2,000,305
利息	12
合計	2,000,317
2 周年事業積立金	
(収入の部)	
平成 27 年度からの繰越	8,019,900
平成 28 年度繰入	0
利息	875
合計	8,020,775
(支出の部)	
85 周年記念誌発行費	438,804
会報 55 号特集号	982,800
式典・祝賀会関係	725,962
開催案内等印刷・送料 その他	1,116,564
合計	3,264,130
○収支残高	4,756,645
3 終身会員積立金	
(収入の部)	
平成 27 年度からの繰越	62,837,747
平成 28 年度繰入	2,648,600
利息	6,573
合計	65,492,920
(支出の部)	
終身会員サービス費(会報発送費 1 回分)	756,304
手数料	864
合計	757,168
○収支残高	64,735,752
4 松苓会奨学金	
(収入の部)	
平成 27 年度からの繰越	5,459,155
平成 28 年度繰入	500,000
平成 28 年度貸与返還金	432,000
利息	57
合計	6,391,212
(支出の部)	
平成 28 年度奨学金貸与	0
○収支残高	6,391,212

平成 28 年度会計収支決算は以上のとおりです。

平成 29 年 3 月 31 日
二松學舎松苓会会長 廣田 克己 ㊞
二松學舎松苓会事務局長 佐藤 修 ㊞

松苓会各支部活動報告

〈出席・参加者欄は敬称略〉

北海道支部

◆支部総会 支部長 増井義昭

平成29年度松苓会北海道支部総会は8月19日(土)に開催された。開催地は例年通り北海道ススキノである。「粋な居酒屋 あいよ」にて行った。出席人数は5人とあまりに少なく、事務局長の説明によれば、札幌在住会員の都合が悪く半減したとの事である。

総会は午後5時30分より始められた。いつもの様に支部会員の異動の報告があり、続いて前年度決算報告及び今年度予算案の説明を行い、各々了解を得た。これにて今総会の承認事項は恙無く終えたわけだが、今回出席者の5名は、

支部長、事務局局長、それに幹事的役割を果たす3名であった為、急遽幹事会的な議題が話し合われた。



ススキノ「粋な居酒屋あいよ」にて

まり時の出席数の向上を図らなければならぬ事、そしてもう一点は、20余年事務局長を続けて頂いている山崎氏についてであり、御本人から、辛い持病がある事などを考えると、という言葉聞き、事務局の刷新を考えるとという大きな転機を迎える事となった。

山崎氏には、松苓会北海道支部の再建者である業績は支部会員全員が承知している事であり、この形を変える事は支部としての今後の明暗を決しかねない事になり、短絡的な決定は出来かねるとの結論はあるにせよ、現実には現実として、2年以内に事務局の体制を新しいものにする様に今後、幹事会、総会にて諮る事とした。

出席数の問題については、他支部等が取り入れている文学散歩、講師を招いての勉強会等々の方法もあるが、これも、幹事会、総会にて結論を出し、新事務局が担う事としてはどうかとの話となった。

只、いつも問題になるのは、北海道の広さと、交通網の関係である。この度の出席者の中には道北、稚内市よりの出席にて、航空機使用にての来札であった。それも総会出席の為だけと聞いている、頭が下がる思いである。総会時に他の行事を入れる

となると、遠方よりの出席者は2泊を考えなければならず、これも又大変な事である。

この様な大きな問題を抱えての支部活動には辛いものもあるが、又、同窓生が集まつての一時には、その辛さにも負けない喜びがあります。総会、分会には多くの会員が顔を会わせていただけたらと祈念いたすところ です。

〈参加者〉 山崎郁紀(文36)

増子優二(文56) 富永貴之(文65)

佐々木伸(文74) 増井義昭(文39)

◆支部報発行

○第55号 平成29年7月20日発行

・支部会員の異動

・邂逅つてすばらしい 佐々木伸

・大学トピックス

・平成29年度北海道支部総会のおしらせ

青森県支部

◆支部総会 支部長 柴垣博孝

8月5日(土)に八戸プラザホテルにおいて松苓会青森県支部の集いを開催しました。四半世紀ぶりに活動を再開して昨年に続く第2回目の支部の集いでしたが、事務局の頑張りがあって引き続き開催することができました。また、お心遣いをいただいた方々もいらつしゃって、大変ありがたく思っている次第です。

初めに、支部長挨拶の後、鴨沢和喜さんが乾杯の音頭を取られて会が



八戸プラザホテルにて

始まりました。今年は10名の方々が参加してくださいましたが、大学時代の部・サークル活動の話などで大いに盛り上がりました。その中で開催時期のことが話題になりました。この時期はちょうど青森ねぶたの時期でもあるので、参加しにくい方々もいらつしゃるとのこと。来年度は日程が確定していますので、それ以降の課題となりました。

また、支部報も発行されました。今のところ支部長が書いていますが、原稿を寄せて下さった方もいらつしゃって、少しずつ体裁を整えていくことができそうです。

ちなみに、この時期、昨年の12月にユネスコ無形文化遺産に「山・鉾・屋台行事」として登録された八戸三社大祭(山車の巡行などを中心とした祭礼行事)が開催されています。当日はちょうどその最終日に当たっており、町も賑わっていました。皆様には、機会があれば是非ご覧いただき、青森県支部の集いにも参加していただければと思っています。来年は八戸プラザホテルで8月4

日(土)に開催する予定です。皆様
の参加をお待ちしております。

なお、当日の参加者は、写真の前
列右より、澁谷裕子(文55)、柴垣
博孝支部長(文44)、佐々木周子(文
50)、畑中さおり(文62)、後列右よ
り、阿部俊一(文53)、高坂俊一(文
43)、田名部一馬(文44)、鴨沢和喜(文
41)、大庭文武(文42)、八木田一義
(文64)の皆さんでした。

◆支部報発行

○第2号 平成29年8月5日発行

- ・2年目の御挨拶 柴垣博孝
- ・平成30年度青森県支部の集い
- ・青森県支部の集い開催さる
- ・松苓会第22回定期総会開催
- ・二松學舎オリジナルグッズ
- ・再開第1回青森県支部の集い
- ・地方出身者大幅減少
- ・青森県の漢詩文その一
- ・二松學舎創立140周年記念募金につ
いて

岩手県支部

◆支部総会

支部長 宮本義孝

松苓会岩手県支部総会・懇親会は
7月23日(日)サンセール盛岡で開
催された。

出席者は11名だった。
此度の総会はゲリラ豪雨に見舞わ
れた。

夜来降りつづく雨で通行止めにな
った道路や運休になった鉄道もあ
り、来られない会員もあるのでな

いかと心配したが、実際は豪雨にも
かわらず全員が集まった。

電車が動かなくなったので新幹線
で来たという会員もいた。

総会は、予定どおり進行し、無事
終了した。

昨年度の支部活動と収支決算報告
の後、今後の支部活動の在り方につ
いて話し合った。

その中で、今回、新しく出たこと
は、

◇支出に名簿作製費を計上すること
にして了承された。

支部では毎年、名簿を更新し、総
会出席者に渡しているが、その一切
は目黒氏のボランティアである。会
員の異動・所在確認の為、出掛け
たり連絡を取ったり、それを冊子に
したりと、負担は結構かかる。幸い昨
年度は会計に多少の余裕が出たの
で、これまでの労にむくいることに
した。また、

◇今年には本部からの職員派遣はな
かった。大学からの近況については、
宮本が報告した。

大学が迎える創立140周年と式典の
こと、それに前後して催される記念
事業のことなどを報告したが、大学
入学者の「出身高校一覧」のところ
で問題が指摘された。

今年、岩手県から大学に入学した
生徒は一人もいない。これは岩手県
ばかりでなく、入学者は東京都と周
辺の関東地域に集中し、地方出身者
は極端に少なくなっている。今後も

こういった傾向がつけば、松苓会
も卒業生は一所に固まり、その内、
地方支部から会員がいなくなる、と
いうことになる。

加えて、ここ数年、本部から大学
卒業生の情報が入らなくなってい
る。県出身者が卒業後、誰がどうな
ったのか判らず、新しい会員の掌握
ができないでいる。

名簿が曖昧なものになれば、やが
ては支部活動にも支障が出てくる
と思われる。一考を要したい。

尚、会報は、昨年度、7回発行した。
最近、発行した会報は、

「葛飾・真間に手児奈を訪ねる」(第
73号・6月15日)

「県支部会員の近況」(特別号・7
月23日)

「平成29年度総会・懇親会を終え
て」(第74号・8月2日)。

宮城県支部

◆支部総会

支部長 千葉 仁

日時 平成29年6月17日(土)

場所 パールダイコク(仙台青葉区)

名称 二松學舎松苓会宮城県支部総
会

概要 本年の宮城県支部の総会は、
大学が6月17日に仙台市において
「大学説明会」を開催されました
で、その催しに同窓生も参加・支援
し盛り立てたいという思いで会員に
呼びかけ、宮城県支部総会を催すこ
とにしました。菅原淳子学長から大

学の発展状況、大学の理念とその具
現化策、新学科の様子等を受験生及
びその保護者とともに伺いました。
ところが、当日は生憎、県下高校総
合体育大会の初日、また全国高校総
合文化祭宮城大会の準備会のため、
高校現場の全教員が動員された日
であり、大学説明会にはOB現職教員
は一人も参加できないという残念な
結果になってしまいました。

支部総会は大学の先生方との懇談
会後に、右記の会場で五人の参加者
で親しく催されました。総会では前
年度の事業報告、一連の関連報告等
を無事にすませ、本題の新支部長選
出が主題でしたが、現役会員が出席
できなかったため、次回の役員会で
選出することに致しました。本支部
の最大の課題は支部会員の参加と活
性化策ですが、多数の会員の内、若
い会員ほど多忙にまぎれて、なか
か支部活動どころではなさそうで
あります。

教育関係

者の大学
への関心は
高いのです
が、いざ支
部活動とし
ては結び付
かない現状
です。支部
会員では、
教育関係者
は個々に活



仙台市「酒楽」にて

動して学会や教科研究会（国語・書道・中国語）等のリーダーとして活躍し、また県教育庁・石巻市教育委員会等で活躍し、中学・高校の管理職に就いている等、多士済々であります。中国語を担当し、また現代からこそ古文・漢文・古文書が確り読めて重宝されている会員もおります。（伝統的な本学の売り）。問題は「二松學舎大学」の卒業生であり、各人の学問研究が大学での学習・研究の成果であることを敢えて顕現せず、地道に個別に活動している点にあります。なかなか会員同士の横の連携に広がらない点にありそうです。加藤常賢・萩谷朴・佐古純一郎先生の時代には、その教え子であることで、よく努力し全国的に通用しました。現在は本人自身の地味な努力だけという厳しい現状にあります。地方に居りますとその点を強く意識させられます。

また支部会員は教育関係者以外の応答はほとんどありません。この点も、国際政治経済学部卒業生を軸に県内で開拓するべき課題でありましょう。

（参加者） 五十嵐伸治（文44）
菊池 純（文42） 木村裕一（文52）
二上芳久（文44） 千葉 仁（文27）

秋田県支部

◆支部総会

支部長 三浦 基
平成29年8月19日（土）午後6時、

昨年と同じ、秋田駅前「和ごころ」で、支部総会、懇談会を開催した。最初に三浦支部長から、来年度に向けての「具体的改革案」の提示があった。



秋田市「和ごころ」にて

*支部総会を県北、中央、県南の各地区持ち回りで行う。

*文学散歩等の企画ものを入れる。

*教員志望の学生や、地元に戻りたい学生、県内の学校で講師をしている先生を支援する場にした。

*「秋田県支部報」を発行したい。

*現役員の業務分担を継続、事前の打合会を実施する等の意欲的な提示もあった。

その後の「懇談会」では、松苓会本部幹事長の小林公雄氏を囲んで、大学の近況や会員の学生時代の話を含めて、自己紹介に始まり、心の和む時間にと。また、話題は甲子園に。東京代表の二松學舎大附属高校対秋田県代表の明桜高校の一戦をテレビ観戦し、試合後流れた校歌に思わず口ずさんだ会員も。世代を超えてつながる学舎の絆を再認識した。

参加者

松苓会本部幹事長 小林公雄（文38）
関谷都志子（文35） 三浦 基（文41）
伊藤直子（文43） 奥山陽子（文46）
熊谷楨子（文56） 谷内直毅（文56）
小坂浩一（文58） 梁田晃子（文75）
以上9名

山形県支部

◆支部総会

支部長 齋藤 裕
平成30年度総会は山形市で

本年度の支部総会は、6月17日（土）午後3時から「ル・ポットフー」で開催しました（参加者は8名）。総会では、報告が2件、協議が1件なされました。

報告のひとつ目は、本年度の支部総会を、会員の協力を得ながら米沢市での開催をめざしましたが、準備不足等があつて今年度の米沢開催は残念ながら見送りになったことについての報告。ふたつ目は、これまでの総会に参加

いただけなかった「国際政治経済学部」卒業の会員が6名いることを確認し、連絡を取らせていたところ、仕事の都合で参加



酒田市「ル・ポットフー」にて

できない方が1名、5名の方は連絡が取れず、今年度は総会に参加いただけの方が残念ながらなかったことについて報告しました。

協議は次年度の総会についてです。これまでの6月第3週の土曜日から6月第4週の土曜日に、また、平成21年度から数えて10年目にあたることから県庁所在地の山形市で開催することにしました。その他、米沢置賜地区、新庄最上地区での開催も、実施に向けて検討することになりました。

懇親会は、佐古純一郎学長がお出でになった昭和63年10月以来の参加者もあつて、大変和やかなものとなりました。

〈出席者〉

上野博資（文33） 齋藤 裕（文38）
阿部（旧姓相澤）陽子（文38）
樋口栄寛（文39） 齋藤善明（文48）
齋藤智子（文48） 今野紀生（文55）
高橋勇一（文64）

群馬県支部

◆群馬松苓会展開催

支部長 小石さち子

書展の歴史の概要

群馬県にあつては、既に大東文化大学、東京学芸大学の卒業生による書作展が開催されていた。両大学に塚本忠男氏が関係する諸先輩が居られて、二松學舎大学の書作展開催を勧められていた。時同じ頃、宮森庸

子・塚本両氏によって書作展の開催が話されていた。

心通う卒業生の仲間です。書作展を開催したい旨のことである。どの程度卒業生の協力が得られるかということもあったが、少人数での書作展開催の思いが強くあった。時間が経つ中、卒業生で開催に賛同してくれるであろう諸氏の名前をあげて企画と協力を願った。話はそううまくはいかない。それも覚悟のことであったが、1人でも多くの卒業生にという思いであった。

具体的になりつつある事を時の群馬県支部長新井喜義氏に話すと、支部行事にしたいという事が感じられた。当初は、あまり大々的ではなく心温まる書展を考えていたのだが、新井氏の企画に動いていくこととなった。主催が二松學舎大学松苓会群馬県支部で会場費の支出をすることであった。

開催要項は宮森・塚本両氏が作成し、事務連絡、後援依頼、開催準備と宮森氏の献身的な仕事があった。しかし、同窓生の協力も忘れることができない。金澤正教、篠原真美子、

加藤敬子の三氏である。

第1回展は平成24年3月9日から14日間高崎シティギャラリー第4展示室で開催され、出品者は8名。加藤、金澤、篠原、高崎行彦、塚本、中里昌之、深澤賢治、宮森であった。30点余の作品と400人の来場者により意義深い「群馬松苓会書展」のスタートとなった。

同窓の者が一つことに会して同窓の喜びに身を置き、書作展によって自己の切磋琢磨を確認できる心安まる一時である。ここに松苓会の目指す会員の自覚があり、社会へアピールできるものと考ええる。松苓会本部には、このような地方での地道な活動にご支援頂き感謝をし、また、先輩の群馬医療福祉大学理事長・学長であられる鈴木利定先生(文33)に多大なご支援を頂いていることを報告しておきたい。

第6回群馬松苓会展は平成29年3月24日から6日間、出品者13人新井、大井田琴、加藤、金澤、小石、篠原、須田章七郎、高崎、塚本、外處珠美、中里、深澤、宮森で、40余の作品と412人の来場者数となった。

◆支部報発行

○第46号 平成29年3月1日発行

- ・新春を迎えて 小石さち子
- ・「創立140周年を迎えて」支部に新しい風を 新井喜義
- ・講演会を通じて 池田ふみ子
- ・平成29年度総会・新年会開催
- ・会員寄稿

群馬に来て知る二松學舎との縁

佐藤 桂
六十を過ぎて学に志す 高柳 薫
茶道部の仲間達と再会して 都丸弥生

- ・知事賞を受賞して 篠原真美子
- ・平成28年度会計報告・事業報告
- ・平成29年度予算・事業計画
- ・第5回群馬松苓会書展報告

千葉県支部

◆支部総会

副支部長 前田康晴

平成29年8月5日(土) 午後1時20分より、「千葉県文化会館」にて、平成29年度二松學舎松苓会千葉県支部総会を開催しました。参加者は、18名でした。総会は、田邊義博副支部長の開会の辞から始まり、次に、平成29年6月に逝去された岩佐稔氏(専20)を偲び一分間の黙禱をしました。続いて、辻将一支部長の挨拶、来賓各位の挨拶と進みました。ご挨拶をいただきましたのは、松苓会本部新井喜義副会長(文37)・平野光治神奈川支部長(文40)・矢澤喜成東京支部長(文50)でした。どの方からも、同窓生の強い結びつきこそが大学をさらに発展させる旨のお話があり、各支部交流の重要性をここでも再確認しました。田村喜夫氏を議長に選出した後、議事に移り、滞りなくすべて了承されました。

さて、「その他」の中で辻支部長

がされたお話がとても印象的でしたので、ここでの要旨をまとめ、記します。まず、松苓会本部に対する諸事をお願い、千葉県支部役員の人事(次期支部長の選任など)、苦しい財政面についての状況説明から始まり、二松學舎大学の教育に献身的に尽くされた金子清超先生や石川梅次郎先生の遺徳についても話が及びました。今後大学として、お二人の先生方を大事にすることは重要なことと、これまで大学に尽力された多くの先生方の教えを後世に伝えることも大学の役割であると語られました。

その後、記念講演として元盛岡大学教授・渡部英喜氏より、「元学長加藤常賢先生の『解釈は起源にあらず』と題し、約1時間30分のお話を賜りました。配布された資料は、「ゆきつばき」(44号)の抜刷「2017年の上期を振り返って」と全国漢文教育学会『新しい漢字漢文教育』第64号(2017年6月発行)文苑抜刷「屈原ゆかりの地をゆく」、さらに本講演のための資料2枚。講演内容の主旨(主張)は、「漢詩を解釈する場合、よ



千葉市「千葉県文化会館」にて

り正確かつより豊かな解釈は、その詩が詠まれた場所を訪ね、その字句が描いた情景を正しく理解することから始まる」ということでありました。その際、渡部氏は資料にある「1 峨眉山月歌」「2 望廬山瀑布」「3 香爐峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」「4 鹿柴」「5 竹里館」を題材にそれぞれの漢詩に用いられた字句を取り出し、それを用いて丁寧な自説（主張・講演の主旨）の正当性を話されました。渡部氏の講演には、実際の場面を見てきたという自信が窺われ、説得力がありました。

記念撮影の後、午後4時20分より、竹内恵子（文34）さん経営の喫茶「ボンヴィル」にて、懇親会を開催しました。今回も松苓会本部や、遠く東京支部・神奈川支部からご参加いただき、大いに盛り上がりました。感謝申し上げます。

（来賓）

松苓会本部副会長 新井喜義（文37）
前松苓会本部副会長

東京支部長 大地武雄（博10）
東京支部監事 矢澤喜成（文50）
東京支部支部長 渡辺大雄（文65）
神奈川支部長 平野光治（文40）
神奈川支部事務局長 小林孝彰（文38）

（講師）
元盛岡大学教授 渡部英喜（文35）

（参加者）
辻 将一（文45） 田邊義博（文46）
前田康晴（文49） 藤本敏雄（文40）
松本眞月（文84） 竹内恵子（文34）

小林政明（文39） 木村行幸（文38）
行木康夫（文44） 小金澤豊（文50）
土屋 誠（文50） 田村喜夫（文50）

◆支部報発行

○第21号 平成29年3月1日発行

・創立140周年に思う

・愚魯の戯言 辻 将一
藤本敏雄

・千葉県支部総会報告

・平成27年度会計報告

・平成27年度活動報告、28年度活動計画

・「一期一会」千葉県支部総会に参加して 小林政明

・平成29年度支部総会の御案内

東京都支部

◆支部総会 支部長 矢澤喜成

平成29年7月22日（土）

於二松學舎大学九段校舎1号館

平野光治神奈川支部長の全面的御協力の下、年来の計画であった神奈川支部との

合同開催が

実現した。

東京都支部

会は、司会

片山聖英

幹事長、議

長 神河秀

春常任幹事

で進行。矢

澤支部長、

大淵俊明・

渡辺大雄両



講演会終了後、講師を囲んで

監事を再
選。活動報
告・計画、
会計報告・
予算案（中
原敬二事務
局長） 監
査報告（渡
辺監事）
第五回女子
会企画行事
お報せ（星
野優子副支
部長兼女子
会代表）



大学九段1号館での総会

隣室での総会を終えた神奈川支部と合流し、講演会後の懇親会（於13階ラウンジ）では、講師水島氏の知人数名も参加され、中川俊一郎神奈川支部副支部長の名司会により、参加者全員による自己紹介、佐久間真里さんの笛の演奏による合唱等、大いに盛り上がった。

○講演会
演題「脇役人生、こぼれる話」

講師 俳優 水島 涼太氏

会員以外の聴講者もあり、39年間の役者生活を通して語られる、様々な出逢い、人間模様、そして、ユーモアとペーソス溢れる世界にすっかり引き込まれた1時間だった。

（参加者） 30名

渡辺和則前学長

持田賢一特任教授（文40）

廣田克己松苓会会長（文38）

山崎正伸松苓会副会長（文41）

小林公雄松苓会幹事長（文38）
永井陵次静岡県支部長（文38）
辻 将一千葉県支部長（文45）
松本茂治群馬県副支部長（文49）
平野光治神奈川県支部長（文40）
池垣しげ子（文38） 鈴木正恵（文41）
佐藤 修（文41） 星野優子（文42）
家永 修（文44） 大山由美子（文47）
神河秀春（文47） 高柳幸雄（文49）
大淵俊明（文50） 片山聖英（文50）
矢澤喜成（文50） 野口悦子（文51）
高橋映子（文53） 中原敬二（文62）
原由来恵（文63） 渡辺大雄（文65）

◆支部報発行

○第62号 平成29年8月1日発行

・母校創立140周年に寄せて

・二松學舎創立140周年記念特別展のご案内 矢澤喜成

・速報 平成29年度支部総会開催

・東京・神奈川支部合同記念講演会「脇役人生、こぼれる話」

・平成28年度活動報告

・埼玉県支部総会参加報告

・会計報告

・女子会企画行事 参加者募集

「初秋の日光」で一日過ごしませう

・二松の風景 第2回 源氏物語とPOP

・三島中洲師墓参・紅葉・温泉バスツアー案内

神奈川県支部

◆支部総会 支部長 平野光治

平成29年7月22日(土) 13時30分より、二松學舎大学九段校舎にて、第40回二松學舎松苓会神奈川県支部総会が開催されました。開会の辞に始まり、支部長挨拶後、来賓の本部の小林公雄幹事長、永井陵次静岡県支部長よりご挨拶、ご祝辞をいただきました。

網野将美地区委員を議長に選出し、議事に入りました。

平成28年度事業報告、同年会計報告が小林孝彰事務局長から提案され、片桐佐和子監査から監査報告があり、承認されました。平成29年度事業計画、同年予算案も拍手で承認されました。

続いて松苓会本部後援による東京都支部・静岡県支部・神奈川県支部共催による「三島中洲師墓参・紅葉・温泉バスツアー」が案内されました。

総会終了後、東京支部との合同による講演会・懇親会が開催されました。俳優水島涼太氏による講演「脇役人



東京都との合同懇親会参加者

生、こぼれる話」は39年の役者人生を通しての生き方や人間関係をユーモアたっぷりに語っていただき、感銘深い講演となりました。

懇親会では来賓ならびに参加者全員に一言いただくなど、大変楽しく有意義な一時を過ごすことができました。会員相互の幅広い親睦を目指した合同開催の意味を実感した講演会、懇親会となりました。

神奈川県支部総会参加者及び関係者は次のとおりです。

■来賓

小林公雄(本部幹事長 文38)
永井陵次(静岡県支部長 文38)
辻 将一(千葉県支部長 文45)
矢澤喜成(東京都支部長 文50)

■神奈川県支部

松丸由文(文31) 廣田克己(文38)
小林孝彰(文38) 平野光治(文40)
山崎正伸(文41) 藤井隆晴(文47)
中川俊郎(文48) 片桐佐和子(文57)
網野将美(文64)

長野県支部

◆支部総会 支部幹事 石川麻貴

平成29年度長野県支部総会が、去る7月29日(土)にホテル信濃路(長野市中御所岡田町)において開催されました。

大学関係者として、文学部教授牧角悦子先生をお迎えし、関保典支部長をはじめとする県内同窓4名を含め、5名の参加となりました。

総会では、関支部長の挨拶の後、牧角悦子先生のご挨拶をいただき、大学の近況や中国文学科の現状などのお話を伺いました。昨今は高校生に馴染みがないということも有り、中国文学科の人氣が無く学生のレベルも低下している、とのことでした。ただし現在の二松學舎大学の中文の指導内容は大変充実しており、最先端の研究者が揃っているとの、頼もしいお話を伺いました。

議事については、平成28年度活動報告、会計報告、さらに平成29年度予算案が満場一致で承認されました。総会終了後、牧角悦子教授より「詩経」とその解釈」と題したご講演をいただきました。

ご講演では、昨今、人文系学部への世間の風当たりが厳しさが増している現状についてのお話から始まりました。牧角先生は、研究者としては、研究に没頭するだけではなく、人文系という学問の大切さや意義をもっと積極的に発信していかなければならないとお考えがあり、その観点からも「古典」という学問は



長野市「ホテル信濃路」にて

大切である、とのことでした。中国で最も古い詩集である『詩経』の解釈において、古代歌謡として詠まれるそれは、結婚や恋愛の喜びを純朴に歌いますが、漢代以降においては、同じ歌でも経典となり、道徳規範の教科書として解釈される、といういくつかの具体例を示していただきました。

近代文学研究においては「作者の意図を解く」ことが求められますが、古典学においては作者の意図は解けません。したがって「解釈を解く」ことが必要になります。古典を学ぶ意義がそこにあり、安易な結論に結ばず、現象の背後を見つめ、深い解釈をする。それが知性を鍛え、リテラシーを養うということにつながり、そしてそれが学問の意義、人文系学科の役割である、と結ばれました。

普段の生活では触れることの少ない『詩経』についてのご講演、さらには学ぶ意義についてのお考えには大変共感でき、個人的にはとても勉強になり、刺激的な時間となりました。

講演後の懇親会は、例年のように和やかな歓談の時間となりました。今年は当日ご都合がなかった同窓生が数名おり、例年よりやや少人数でしたが、思い出話や近況報告など話題に尽きることはありませんでした。大変貴重な時間となりましたこと、感謝申し上げます。

◆支部報発行

○第28号 平成29年6月20日発行

・「論語」の人間の心の描写は、無
尽蔵の宝山 関 保典

・支部報発行に寄せて 廣田克己

・支部報発行に寄せて 野間文史

・平成29年度文学散歩案内

須坂藩主堀直虎ゆかりの城下町を
巡って

・平成28年度文学散歩報告

眞田十萬石の城下町、信州松代を
巡る

・平成28年度会計報告

・長野県支部総会のお知らせ

・平成28年度長野県出身卒業生数

・平成29年度大学入学試験結果

・平成28年度業種別就職一覽

大分県支部

◆支部総会 支部長 甲斐啓一郎

8月26日(土)午後5時半より大
分市府内町の郷土料理『こつこつ庵』
で平成29年度松苓会大分県支部総会
を開催。参加者は昨年よりも一人少
ない6名でありました。

松苓会本部から廣田克己会長がわ
ざわざ東京からお見えになりました
のに参加者を増やすことができず申
し訳なく思いました。

廣田会長は大学在籍者出身都道府
県別一覽表をお配りになり、近年の
入学者は西日本からは激減している
旨説明なさいました。残念ながら大
分県出身者は現在一人も在籍してい
ないということが分かりました。

就職・進

学で地元志

向の強い大

分県は東京

の大学に進

学する生徒

は減ってい

る状況です

ので、以前

のように入

学者を増や

すのは難し

いかも知れ

ません。

総会では出席者の近況や夏の甲子
園大会に出場した附属高校野球部の
話(三本松高校に敗れたがもう1回
は勝利して欲しかった)、漱石アン
ドロイドの更なる活用方法など、あ
ちらこちらに話は広がりました。

防衛大出身の是本信義様からは陸
上自衛隊第5旅団長の堀井泰蔵さん
は二松學舎大学国文科卒業(文55)
で、今後の活躍が期待されていると
いう情報を第5旅団ホームページと
ともに紹介していただきました。

最後はカセットテープを流し校歌
を歌い、例年のように畔津氏の音頭
で万歳三唱。次年度の総会での再会
を約束して散会となりました。

〈参加者〉

廣田克己会長(文38)

平野芳彦(専14) 畔津真智子(文34)

是本信義(特別会員)

中井智賀子(文44) 甲斐啓一郎(文52)



大分市「こつこつ庵」にて

卒業生だより

落語研究会50周年記念行事報告

事務局長 松川明弘(文55)

落語研究会は、今年で創部50周年
を迎えます。今も全国規模のコンク
ールに出場し、施設慰問やほかの大
学の落研との交流も盛んです。そこ
で、50周年を機にOB会を設立し、
記念行事を行おうということになり
ました。

8月26日、中洲記念講堂で記念寄
席、書道教室でOB会総会、13階ラ
ウンジで懇親会を企画しました。

記念寄席は、二部制とし、第一部
はOB有志による高座発表。卒業し
てもアマチュアで活動を続けている
者も多く、現役学生と入り混じって



中洲記念講堂にて勢揃い

の楽しいステージとなりました。一
方、第二部は、プロの噺家さんをお
招きしての本格的な寄席会。これは
OBと交流のある柳家喬太郎師匠、
三遊亭兼好師匠のご厚意により、実
現しました。現役学生に本物を体験
させてあげたいとの思いから企画し
たものです。OB会設立の一番の目
的である「現役学生の支援」につな
がれば幸いです。

記念寄席には、一般のお客様も多
く入場して下さいました。それにも
増して、案内を見て、駆け付けてく
ださったOBの皆さんにお会いでき
たことが大変嬉しかったです。私が
入学する以前の貴重なお話なども聞
け、落研50年の歴史が伝わったひ
と時でもありました。また、初代顧
問の青山忠一先生の「落研からプロ
を出すべきではない」という教えに
ついては、歴代のOBの皆さんが口々
におっしゃる言葉でした。プロを輩
出しなかったからこそ、OBはそれ
ぞれの分野で経験を積み、様々な人
脈を得、記念寄席成功に導くことが
出来たのではないかと感じました。

記念寄席が大盛況でしたので、総
会はあまり時間がありませんでした
が、これからのOB会の方向性が決
定しました。

13階ラウンジでの懇親会には兼好
師匠や顧問の中川桂先生も参加し
てくださいました。師匠を囲み、中川
先生を囲み、落語の話、落研の話に
花が咲きました。前日の準備から本

番までもに活動した仲間同士、学生とOBの壁もなくなった楽しい会となりました。

50周年を迎えられた今、50年間続いた落研を支えてくださった歴代の顧問の先生方や、今の落研をご指導されている現顧問の中川先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

また、記念寄席、懇親会を行うにあたりご協力くださった総務部の皆様、松苓会の事務局の皆様、二松學舎サービスの皆様、我儘を聞いてくださり、ありがとうございます。

OB会はまだ始まったばかりです。この記念行事をきっかけにさらに入会して下さるOBの方がいれば幸いです。記念行事の詳細は落研OB会のホームページからもご覧になれます。どうぞ一度開いてみてください。また、入会した方の中にも今回は都合により参加できなかった方もいます。来年、再来年と続けることでいつかお会いできたらと思います。

55期生書道部同期会

幹事 蓑毛伸哉(文55)

私たち55期生が卒業して30年の節目に当たる今年、在籍していた書道部の同期会を開催しました。遠方の鹿児島をはじめ、7割を越える17名が集う会となりました。

私たちが入学したのは昭和58年の春。その奥義に触れたくて書道部に入部しました。右も左もわからぬ不



55期生の同期会参加者

安を癒やしてくれる仲間がほしいという思いもあったかもしれない。ここでは、合宿や学内外での展覧会など、数々の貴重な経験を積み重ねてきました。共に切磋琢磨したこと、考え方の違いも上手に協和し、価値観を共有する者同士にしかわからない絆を紡いでいったのでした。そして4年後の春、仲良しだった私たちは、卒業旅行先の未だ寒気緩まぬ金沢の地で、お互いの前途を祝しつつ別れを惜しんだのです。

しかし社会に出れば、一体に新しい世界で無我夢中に生きていくのが人の常です。ご多分に漏れず、私も日々の生活に齟齬しながら53歳になる今日まで生きてきました。で、心理的な隔たりは相応に生じていたはず。ですから実際には何人くらい集まれるのか、参加できる

人もすっかり変わってしまったのではないかと、といった一抹の不安を抱える中での企画でありました。

ところが実際に再会するや否や、その不安は杞憂であったことがわかりました。もちろん容姿には結構な年季が入っています。長の社会生活で脳味噌にも人格にも皺が寄ったはず。しかし、あの金沢での私たちの関係性だけは変わることなく今に現れたのでした。食事や酒そのものを話題にする人はいません。話の種に思いついて、今をときめく築地市場が展望できる42階の和食屋を予約したのに、関心がそちらに向かう隙もありません。二次会を含めての7時間は瞬く間に過ぎていきます。あの頃を振り返って大笑いし、現在の生活や健康面で共鳴し合い、そろそろ気になり始めた物忘れのことでは慰め合い、スマホ画面から顔を離してライン交換するなど、全員にとつて忘れ得ぬ同期会となりました。

そして味を占めた私たちは、既に気の早いことを考えています。次は5年後か、それとも還暦の年か、といった具合に。みんな旅行に行くという案まで持ち上がったというほどです。同じ釜の飯をくった大学の同期の仲間だからこそ、こんなにも心安く打ち解けられるのでしょう。次期幹事もすんなりと決まるのではないのでしょうか。当分はグループライン着信音の絶えない日々が続きます。

93歳の雨海博洋先生を囲んで

幹事 山崎正伸(文41)

4月23日に、前日93歳の誕生日を迎えられた雨海博洋先生(専19)を囲んで、小宴が催された。昭和45年1月3日に始まった「三日の会」の出席者を中心に、声掛けをして、ゼミのコンパやさまざまな会でお世話になっている吉祥寺のピザ店トニーでの会。出席者は、松田喜好(文37)、中島直美(文40)、須山正子・永瀬恵子・守口曉美・山崎正伸(以上文41)に、林直子(文42)、相澤雄子・尾形賢一・千葉美幸(以上文43)、千葉寛(院修10)・大山由美子・斎藤一美・藤井浩子・松永恵子(以上文47)、長沼英二(文52)と奥さん、川又憲司(文53)とご家族、間宮聡子(文53)とご主人、小清水裕子(文56)に、先生の代ゼミでの教え子で、本学での講師を務められていた君塚芳輝さんなど、懐かしい人達が集まって、先生の長寿をお祝いして、旧交を温めました。



吉祥寺「ピザ店トニー」にて

大学だより

国際政治経済学部国際経営学科を新設

平成30年4月、国際政治経済学部新たに「国際経営学科」が誕生します。

21世紀に入り顕著になってきたグローバル化の潮流は、現在その勢いを更に増し、社会の構造や価値観を大きく変化させています。経済やビジネスの世界も大きな影響を受け、国際社会の変化に素早く対応できる企業経営の在り方が問われる時代になっています。ビジネスにおける国際的事業展開は当然となり、企業を取り巻く外部環境の分析やそれに基づく行動戦略・市場戦略はますます重要となっています。

こうした背景を受け、日本が国際社会の経済活動をリードするためには必要な人材育成が期待されています。具体的には、企業経営に関する理論や知識のみに偏ることなく、広く国際政治経済事象の知見と企業経営を巡る応用実践的な専門知識を修得し、それらの知見を基盤として国際的な企業活動に生じる課題を見極め解決する力や、ICT機器や外国語を駆使し、国際社会を生き抜く実践的な「創造的思考力」と社会の変化に対応して自らのキャリアを主体的に切り開く力を身に付けた、国際社会の発展・構築に貢献できる人材

が必要となります。

本学国際政治経済学部では、今後ますます進展する社会や企業経営のグローバル化に対応できるこうした人材を育成することを目的に、これまで蓄積してきた国際政治経済に関する知見等を基盤としつつ、主に経営学分野、経済ビジネス分野を中心的な学問分野とする「国際経営学科」を新設することとしました。

詳しくは、本学ホームページを御覧ください。

大学入学定員・収容定員を増員

学校法人の中長期計画である「2020 Plan」に基づき、本学は各種計画を推進しており、その一環として、新学科の設置や既存学科の定員増等を行っています。

具体的には、新学科の設置として、平成29年4月に文学部に「都市文化デザイン学科（入学定員50人）」を開設し、平成30年4月に国際政治経済学部「国際経営学科（入学定員80人）」を新設します。既存学科の定員増としては、平成30年4月入学以降、文学部「国文学科」の入学定員を現状の260人から300人に増員することとしています。

これにより、大学の入学定員は、文学部が現状の400人から440人に、国際政治経済学部が現行の200人から240人に増員されます。また、大学の収容定員は年次進行により順次拡大し、完成年度を迎える平成33年

度には、文学部が現状の1600人から1760人に、国際政治経済学部が現状の800人から960人に、大学全体としては現状の2400人から2720人に増員されることとなります。入学定員及び収容定員の詳細は、次表参照。

学部学科組織		入学定員			収容定員		
		変更前	変更後	増減	変更前	変更後	増減
		(単位：人)					
文学部	国文学科	260	300	40	1,040	1,200	160
	中国文学科	90	90	—	360	360	—
	都市文化デザイン学科	50	50	—	200	200	—
	計	400	440	40	1,600	1,760	160
国際政治経済学部	国際政治経済学科	200	160	△40	800	640	△160
	国際経営学科（新設）	—	80	80	—	320	320
	計	200	240	40	800	960	160
合 計		600	680	80	2,400	2,720	320

九段キャンパスに新校舎を取得

現在、大学の九段キャンパスは1号館から4号館で構成されています

が、「新学科の開設に伴う開講授業数の増加」や「在籍学生の滞在スペースの確保」等への対応として、靖国通りの九段4号館至近に新たに不動産物件（所在地：千代田区九段南）を取得しました。同物件には一部に現在入居テナントがあるため、教室等として使用するのには一部フロアからということになりますが、「九段5号館（九段光ビル）」として使用を開始する予定です。

なお、将来的には、全てのテナントが退去後に現建物を取り壊し、校舎を新築する予定としています。

平成29年度本学卒業高等学校長との懇談会開催

5月24日（水）に、大宮ソニックシティ内のレストラン「瑞麟」にて、卒業生で現職の高等学校長の方々と大学教職員との懇談会が開催された。法人からは五十嵐清常任理事、大学からは磯水絵副学長（文学部教授）、瀧田浩学務局長（文学部教授）、教職課程からは若井田正文教職支援センター長（特別招聘教授）、田村幸子特別招聘教授が参加された。当日は、会場近くで「全国高等学校長協会総会・研究協議会」が催されるのに合わせての設定であったが、本学の会合のためだけに大宮まで足を運んでくださった方もいらつしたことは大変有難いことであった。

懇談会は教職支援センターの事務担当者も加えて19名で開会され、教

育の現状から学生時代の昔話など話題が尽きることなく、大変有意義な意見交換の場となった。今回は校務のためご参加頂けなかった卒業生の高等学校長からは、不参加のご連絡の際に母校への励ましのお言葉を頂戴するなど、卒業生教員の皆様にはこの場を借りて御礼を申し上げます。

国語（古典）講習会の開催

8月29日（火）に、水戸市の「ホテルレイクビュー水戸」で本学主催の国語講習会（茨城県教育委員会後援・水戸市教育委員会後援）が開催された。

今年度は、文学部特別招聘教授・大学院文学研究科国文学専攻主任の多田一臣先生による『万葉びとの自



高等学校長との懇談会（大宮市）

然観」と題して実施した。大学代表として磯水絵副学長（文学部教授）、若井田正文教職支援センター長（特別招聘教授）が参加された。80席の会場内がほぼ満席となる受講者が集まり、多田先生の講義に熱心に聞き入った。『古事記』や『日本書紀』から「古代の人びとの時間意識を探り、時間と空間のとりえ方」の解説から始まり、豊かな引用文献で難解な課題をわかりやすくご教示頂いた。現職の先生方の教材研究の糧となりうる力強い講演に会場が盛大な拍手で満たされた。

各県の教員の会総会について

今年度開催された教員の会総会・講演会については左記のとおり。

○埼玉県教員の会

開催日 8月17日（木）

場所 二松學舎大学九段校舎



国語講習会（水戸市）

議事 ①平成29年度役員を選出について

②今後の活動について

記念講演

「教科書に載る説話

——『宇治拾遺物語』を中心に——」

講師 磯水絵教授

○神奈川県教員の会

開催日 8月19日（土）

場所 二松學舎大学九段校舎

議事 ①平成28年度事業報告及び決算報告

②平成29年度役員選出

③平成29年度事業計画及び予算案

記念講演

「小説の中の〈女〉たち

——明治期女子教育と文学——」

講師 五井信教授

○茨城県教員の会

開催日 8月29日（火）



埼玉県教員の会（大学九段1号館）



神奈川県教員の会（大学九段1号館）

場所 議事

①教員の会活動経過報告
②平成28年度会計報告並びに29年度活動予定



茨城県教員の会（水戸市）

教員免許状更新講習

母校で更新講習を受講して

塚越正典(文53)



早いもので大学卒業後、30年以上もたつてしまった。卒業後すぐ

に栃木県の公立高校で教壇に立ち、現在まで何とか続いている。専門外の部活動指導など大変なこともあるがやはりこの仕事が好きだから続いているのだろう。なんとか定年までもう少し続けていこうと思う。

そんなわけで今回仕事を続けていくため、母校で講習を受講した。夏休みに集中して受講できること、選択講習の内容も授業に活かせること、新校舎になった九段校舎の様子を知りたかったことが母校を選んだ理由だ。また大学周辺の様子も在学当時と比較したいと思い受講することにした。

5日間にわたる講習だったが、私にとって大変有意義で充実したものとなった。最も大きな収穫は、現在指導している生徒たちの試験に向かう気持ちを味わえたことだ。今回の講習では毎日講習後「修了認定試験」があった。久々に味わう試験前の緊張感、試験後の不安感「果たして認定されたのか。」生徒たちはこんな

気持ちで高校生活を送っているのだと実感できたのは大きかった。定期試験や校外模試で日々神経をすり減らしている生徒たちをもっと労ってほしいのだと感じた。

また、講習内容も国語教師にとつてすばらしいものだった。現在職場では主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」)の視点からの授業改善が求められている。このことについても授業で活かせる話題や方法を学ぶことができた。さっそく二学期から試してみたい。どうしても国語という教科は教科書とノート・プリントの定番授業を進めがちだが、少しずつ新しい方法も試したい。

勤務校に帰って課外中、現在二松で学ぶ卒業生が遊びに来た。今、「漢文」の学習に熱中しているらしい。楽しそうに元担任と多くを語り帰って行った。彼を見ていて講習中の交流会や同級生との会合を思い出した。「亦樂しからずや」も実感していた。

(栃木県立宇都宮北高等学校)

更新講習を受講して

格和恵美子(文64)



更新講習は母校で決めています。折しも附属高校が甲子園へ

の切符を手にした時期でもあり、道々に並ぶ「祝・甲子園出場」ののぼりを横目に、高校・大学時代を思い出す懐かしい通学路となりました。

私は都内の公立中学校で講師として勤務しているため、普段、研修を受ける機会がほとんどありません。そんな中の講習で緊張感がありました。そんな中、やはり母校で受講してよかったと思える5日間でした。松苓会による卒業生の交流会で、懐かしい仲間や先生方と再会できたのも非常に大きい支えとなりました。お忙しい中、素敵な催しをありがとうございます。

講習では、立場上、普段直面・体験することのない多くのことを学ばせていただきました。職員室で見聞きする事例の断片が大きく一つにつながったような気がします。中でも、キャリア教育の講義では考えさせられることが非常に多くありました。

夜間学級や通信教育課程の担当をさせていだいていたころに感じた義務教育の在り方、そして、卒業するということの意味やその後の進路。親としてこれから迎える子供たちの進路選択、そして、非常勤講師を長年続けている自身の人生。さらに、普段目の前にいる生徒たちへの助言の仕方など、様々な立場に立つて視野を広く持ち、考えるきっかけを与えていただきました。

また、最終日に受講した書道の講義では、勉強不足を痛感するとともに

に、学ぶ姿勢の根本を教えていただきました。作品は一つの大きなまとまりではなく、一点一画の細かな集合体であること、それぞれを極めなければ後世に残る作品とはなり得ないことなど、分かっているようで分かっていなかった実態を改めて認識することができました。

先生方の仰る「お気楽にお聞き下さい」とのお言葉に甘えることなく、日ごろ使っていない脳細胞をフル回転させた5日間。学んだことを今後の仕事や生活にどう活かしていくかが大きな課題となりました。(東京都公立中学校講師)

交流会を開催

本年度の教員免許状更新講習が8月7日から11日までの5日間で行われた。松苓会では、母校で講習を受講した44人の卒業生を対象に、卒業生教員の交流会を8月7日、初日の講習終了後に午後5時10分から大学13階のラウンジで開催した。

当日は、大学から高野和基副学長が出席、大学の近況等の説明があり和気あいあいとした交流会となった。



受講者交流会 大学九段1号館13階ラウンジにて

発足20年を経た国際交流センター

三島 周二

国際交流センターは、平成7年9月1日に開設された。平成3年に、「国際社会に貢献する有為な人材を養成する」ことを目的の一つとして国際政治経済学部が設置された、その4年後のことである。開設当時から約15年間は、柏校舎（旧沼南校舎）1号館2階に事務室が設置され、途中、九段校舎3階の教務課・学生支援課と同居の時代を経て、現在は九段校舎1号館地下2階に事務室を構えるようになった。

開設から今日に至るまでの約23年間、各国



平成25年度 秋の交流会（鎌倉）



平成27年度 短期海外研修（オーストラリア）



現在の国際交流センター

の様々な留学生や海外の大学の教職員と対応を行ってきた職員の視点から少し振り返ってみよう。

国際交流センターは、雨海博洋元学長の発案により、交流協定締結候補とする海外大学の調査、日本人学生の海外留学機会拡大に向けた、短期海外語学研修プログラムの開発と交換留学制度の導入、在学している外国人留学生の生活支援等を目的に設置され、蔡秋雄センター長（国際政治経済学部教授）、井上和男事務室長（兼沼南学生課長）、島田穂隆室員の3名体制でスタートした。開設当時は、学部外国人留学生の在籍者が4名（中国3名、マレーシア1名）、短期海外語学研修プログラムもまだ、「海外研修旅行」という単位化されていない位置付けで、今と違っては隔世の感があるが、一般教職員の間では、「二松學舎大学に国際交流は必要か?」、「文学部の学生が海外に行く必要があるのか?」というレベルの議論が為されていたことが思い出される。国際交流センターの施設も、事務室と学生用の滞在場所は用意されていたが、参考図書やラウンジ、自習用スペースの家具など、一切準備されていない状況で、文字通り「一」からの機能立ち上げであった。

開設2年目には、本学文学部中国文学科から新卒で松居時（小林時）室員が採用され、中国語圏の北京大学歴史学系（中国）や中国文化大学（台湾）との交流協定締結、短期海

外語学研修の単位化などに向けて、大きな戦力となった。また、外国人留学生の在籍者数拡充のため、外国人留学生対象の入試相談会を設けたり、国際交流センター職員が日本語学校を直接訪問して学生募集活動を行った。更に入試委員会に問題提起を行って、出願条件の変更や試験回数などの複数化など、学内の制度改革を行った。センター開設から5年間程度は、そうした学内の「国際交流」に係る意識を啓発し、諸制度改革・新設のための準備期間であった。

平成13年度末で小林が退任し、後任に饗庭貴子室員が着任した。その後、学内の人事異動により、長谷川日出世センター長（国際政治経済学部教授）、神河秀春事務室長、饗庭貴子室員、三島周二室員の体制となった。その間、留学生の在籍者数は年々増加し、平成17年には100名を超える留学生が在籍し、学生対応に人員が不足することもしばしば発生したことから、室員を従来の2名体制から3名体制と改めた（三島周二室員、木戸美和室員、田村悠室員）。

当時、国際教育交流協議会の学外研修等で、服部誠理事が、「留学生の対応には、手間と時間とお金がかかってしまうものです」ということをおっしゃられていたが、日々そのことを痛感させられた。大規模大学ならいざ知らず、本学では、受入業務、派遣業務、奨学金業務、海外大学との交流業務、学生対応等々、大学の国際交流にかかるすべての業務処理を数名で行っていたため、特に100名超の留学生を受け入れていた数年間は、昼夜・土日関係ない日々が続いた。留学生トラブル対応で、出席不良の留学生をアルバイト先の

前で張り込み、強く諫め説得して大学まで連れてきたことや、卒業した留学生が、留学期間中借りたアパートをひどく汚したまま帰国したため、大家から怒りのクレーム電話が入り、菓子折りを持って訪ね、雨中、傘もささず玄関先で謝り続けたこともあった。

柏校舎時代の国際交流センター事務室は、事務室の前に、留学関連の書籍を配架し、留学生や日本人学生がくつろぎながら交流ができる国際交流スペースを設置していた。現在、九段校舎では、敷地の兼ね合いがあり、なかなか当時のような開放的な空間を用意することは難しいものの、平成26年から事務室の前に「国際交流スペース」を設置。また平成29年から2号館2階に「語学センター」の設置・運用を開始し、日本人学生が海外へ飛び立つための相談会や説明会等を実施している。国際交流センターの業務内容も、年々多岐に渡ることから、現在は、塩田今日子センター長（文学部教授）、西園隆士室長、斉田智明室付室長、三島周二室長補佐、染谷亜紀室員、木谷陽子室員の体制となっている。

海外協定校との交換留学制度も活発に行っており、日本人の派遣留学生数は62名、海外協定校からの受入れ留学生数は89名にのぼる（いずれもセンター開設から平成28年度までの累計人数）。

歴代国際交流センター長は次のとおり（敬称略）。

蔡秋雄（清水秋雄）、菅原淳子、長谷川日出世、武永尚子、佐藤晋、吉崎一衛、塩田今日子。

（国際交流センター事務室）

恩師からの便り

雑感

井上 巽



歴史家レオ
ポルド・フォ
ン・ランケは
「歴史家は長
生きすべきで
ある」という

主旨の文章を残しています。歴史の研究者はできるだけ長命をたもって、変動する世界史の行く末を見きわめ、その歴史研究が世界の将来を正しく見通していたか否かを自らの目で確かめてみるべきである、というほどの意味かと思われまふ。

ランケは19世紀に活躍したドイツの歴史家で、近代歴史学の祖とよばれていますが、このランケの教えにならって、歴史的な視野から21世紀のまことに変動きわまりない世界の動きをみることの大切さを最近、強く感じています。もう少し具体的にいうと、こういうことになります。

私自身は人生の大半を20世紀の社会環境のなかで生きてきました。そうした20世紀的人間の目で今日の社会と世界をみると、改めて、啞然とするような人間社会の巨大な変貌を感じます。最近の情報技術(IT)の急速な発展によって、昔には想像もできなかったようなデジタル製品

今号から恩師からの便りを掲載します。第一回は井上巽・呉英元の、名誉教授お二方に執筆いただきました。

のなかで、いま、私たちは日常生活を送っています。さらに、人工知能(AI)やあらゆるモノがネットワークにつながる「IoT」などの先端技術が、どうやら現実のものになりつつあるようです。21世紀の世界では、私のような20世紀的人間にとって、およそ想像を絶するような巨大な技術革新と生産力水準の加速度的上昇が進むことになるでしょう。他方ではまた、21世紀に入って、世界の政治・経済分野でもこれまでとは様相を異にした事態が進行しています。2008年のリーマン・ショックが世界経済をゆるがしてから、はやくも10年が経過しましたが、この間に先進国では中間層の没落が進行してポピュリズムが世界的に台頭しました。イギリスではEU離脱、アメリカではトランプ大統領の誕生が、いままなお世界政治をゆるがしつつあることもご承知のとおりです。21世紀の世界は、いったいどこに向かって進もうとしているのでしょうか。

平均年齢が高くなった現代では、私もまだ長寿の域にたつたとはいえないませんが、だんだんと老境に入ってきたことは間違いないようです。ランケの教えにしたがって、どこまで長命をたもってこの激動する世界の行く末を自分自身の目で確かめる

ことができるのか。これは、与えられた寿命と天運にまかせる以外にはありません。

とりとめもない雑感を記しました。最後に、卒業生の皆様のご健勝といっそうのご活躍をお祈りしながら筆をおきます。
(名誉教授)

草の根の日韓交流を今も

呉 英元



皆様の母校である二松學舎の創立140周年記念を迎えお祝い申し上げます。

私も二松學舎大学を定年退職してからははや11年が過ぎました。いろいろと社会活動をしている中で皆様の思い出すことが多くあります。

日本韓国語教育学会の顧問として毎年一回、学術大会に参加し、韓国語教育研究の学会誌を出版しております。また、主な活動としては、駐日韓国大使館韓国文化院の「世宗学堂」代表理事兼学堂長を拝命し、奉仕活動と共に「韓国社会と文化」のスペシャル講座を担当しながら生きた甲斐を感じ楽しんでおります。

駐日韓国文化院は、韓日文化交流の場として両国をつなぐ役割を果たし、様々な情報と友情を交わすところ です。その中の世宗学堂は、韓国語講座を始め文化講座や多彩なイベントを設けて日本の多くの方々を迎

えております。また、受講者の交流会として一年間習得した実力を披露する場をつくり、それを通して発展ぶりを皆で楽しんでいきます。毎年夏から秋にかけては、韓日交流の作文コンテストを行います。全国で一般人や中高生を含め2千名を超えるほど応募者があり、つい先頃、審査員として入選者を決めただけで

近年、日韓関係が政治的な面で冷え込んでいます。中、応募者の作品の中の熱い友情や互いを労わる文章に心温まり、読む側を癒してくれました。2018年2月に開催される平昌オリンピックの成功を応援し、2020年の東京オリンピックの成功を祈る若者たちの気持ちが輝いていました。また、日韓両国共に隣の国の言葉や文化が好きになって独学で言葉を勉強するケース、異文化理解を求めて旅をする。直接人々と接しながら相手の良さに魅了され友情が芽生えるケース、さらに年を重ねて交流を広めていくケースなどが多くありました。人柄に惹かれて国際結婚をし、言葉を知らない親同士が穏やかに親族となつて行き和やかに暮らしている家庭も美しかったです。

文章の至るところに、卒業生の皆様の思い出と重なるものが見え隠れし、私を喜ばせました。20年近い二松學舎のもとでの私の歩みの中には常に皆さんがいました。卒業した後



器「二胡」の民族楽
と、中国
年前のこ
りが、9
するつも
まで全う

会員からの便り

二胡奏者として

真真、関 浩恵（文56）

皆さんこんにちは。真真（しんしん）と申します。上野動物公園のぼんだの名前を拝借し、はや6年。中日友好はもちろん、世界の平和を願いながら演奏しております。

卒業後、千葉県立高校に24年間在職しまして、担任した生徒がお世話になったり、国語部会出張で同級生に再会したりするのも嬉しく、定年

も、私の退職後も、結婚後お子さんを連れて我が家を訪問して楽しんでくれた皆さん。可愛いお子さんたちは、私の傍を付きまといながら「先生！先生！」と呼んでくれて、「私だれの先生？」と聞けば、「ママの先生」と答えてくれたことなど思

い出に重ねながら韓日交流作文コンテストを審査しました。

こういう皆様のような日本人がいる限り、私の日韓交流の道のはしくありません。日本と韓国、二松學舎と皆さんの将来に幸あれとお祈り申し上げます。（名誉教授）

（にこ）に出会い生来の音楽好きに火がついて、練習したい一心で5年前に退職してしまいました。

現在はフリーの二胡奏者として企業・行政・各種団体様の総会式典等のアトラクションやミニライブ等のご依頼を承っています。年に数回リサイクルも企画します。また、震災後東北の慰問では音楽の原点に触れ学びました。6年間自力でしたが今後の継続方法は課題です。また蛇足ですが『二胡之友』という専門誌に「にこにこばんだ」が主人公の四コマ漫画も好評連載中です。演奏に於いて、大学で中国文化の源泉に触れた恩恵は計り知れません。唐詩由来の曲の披露や、朗詠と演奏のコラボあり、専攻書道で臨書の山に埋もれた経験や「藝書」サークルに所属したこともあるせいか、曲目プログラムは毛筆書きです。

故郷の山口県宇部市では「ふるさと大使」を拝命し、関東のイベント等で演奏、故郷紹介をしています。近々山口にも拠点を設け、レッスンや演奏活動を展開する計画もございます。一層自分の根つこの部分を充実させねば、と思います。二月の卒業生名刺交換会では久しぶりに母校の温かさに触れました。その日出会った方はHPから二枚のCDアルバムをご注文。その後ご家族で演奏会にもご来場下さり感激いたしました。今後ご声援にお応えしていきます。

多くの方は私の経歴に驚かれますがしいて言えばこれが「無為自然」なのかと。流れに逆らっている猶予はありません。軌道を見据え日々精進するだけです。今回もこうして振り返る機会をいただき改めて進むべき道を感じられたことに感謝します。（旧姓戎谷 千葉県流山市在住）HP <http://www.shinshin.com/> ブログ <http://ameblo.jp/shinshin223/>

『青春らばい』出版について

今年に入って『青春らばい』という本を出させてもらいました。これはいろんな世代の方々に読んでいただきたい本です。

作品は「トーク、いきましょ」と「トコとミミのお話」の二部構成になっています。一部の方は、日常にちょっと疲れた時やなにかにいやけ（…）がさしたとき読んでただ単純に笑って欲しくて書いたエッセイです。二部の方は、自分は（そうとう）みつともない学生時代をおくったのでその反省と、（その当時に）こういうものがあつたらなという願望から生まれたものです。ねえ皆様、人は誰もが不安や悩みをもち泣き笑いしながら、それでもいっしょうけんめい生きるものだと思いますか？

皆様、どうぞお時間のある時、私の青春の思い出を読んで、笑ってやって下さい。（静岡県下田市在住）

『青春らばい』「あとがき」

1964年、東京オリンピックの開かれた年に生まれた私は、高度成長期のまっただ中を幼少期に、バブルの絶頂期を青春時代に迎えた。大学を卒業し、社会に出た私たちは「新人類」（しんじんるい）と呼ばれ、三高（さんこう）（高収入、高学歴、高身長）の男性を理想の結婚相手としていていわれてたけど、それなりに社会に組みこまれていき、私の知る限りじゃ努力して組織で働いて給料をもらい、普通のサラリーマンたちと結婚した人がたいはんである。今、過労死だとか騒がれるが（もちろん余裕というのは大切だ）父母の世代の方がもっと過酷な状況で働いていた。また、子供を簡単に「ひきこも」らせたりもなかった。もつとも社会が成熟して状況が変わっているから逃げ場のない子が自らの命をたつたなどというニュースをきくと誰かが何かがなんとかしてやれなかつたのか、ととても悲しいし腹が立つ。そして当然、どんな世代・時代にも例外というのは（けっこう多く）いたりもする。

私たちの国は、就学・就労・結婚・信仰：



と、いろいろな権利や自由が法律で決められているすばらしい国なの

だ。でも私たちは守らなくてはならないルールのある社会の中で生きている。権利や自由ばかりを通して義務や責任をおこたると、グチャグチャになってしまう。そう、あなたの人生さえも。大切な未来さえも。

そうならないために、オバチャンがもてる知識をふりしぼって経験から学び、先輩から教えられたことを伝えたかったのだ。人は人の中でしか生きてはいけないのだから。

こどものはつびよう―かみしばい―

大國真由実（文69）

かつて、室町時代に小弓公方（おゆみくぼう）が置かれた、歴史ある千葉市おゆみ野の地で、夕涼み会を企画、7月22日に第1回目を開催しました。

千葉・市原ニュータウンとして開発されたのは約30年前のこと。歴史は古くても街としての歴史は新しく、ご高齢の方の多いこの地域で開催した理由は、ご高齢の方と子どもたちとのふれあいの場の一つとしたいとともに、子どもたちには発表をとおして達成感を味わってもらえば、という思いからでした。

千葉市、千葉市教育委員会、千葉市社会福祉協議会からも後援をしていただけることになりましたが、前例のない行事のようであり、許可を頂くまでには、やや時間を要することになりました。

夕涼み会の大きな柱は、子どもの

発表と大人の発表の2本です。前者は、子どもたちが紙芝居を上演するというもの。参加者を募り、3名の小学生が発表してくれました。途中、紙芝居を読んでいる子につられて、観客の2歳くらいのお子さんが楽しそうに真似をするなど、うれしいハプニングがあり、区の地域振興課の方からも、また続けて欲しいと好評をいただきました。後者は、子どもにすすめる本の紹介と、ブラックスシアターの上演です。開催後のアンケートでは、次回も本の紹介を希望する声が多く、自力で本が読める年齢になり、どのような本を我が子に薦めれば良いか悩む保護者が多いことを感じました。ブラックスシアターも、インパクトのある表現法に加え、初めて観た方が多かったようで、次回もぜひという意見をいただきました。

マイクの必要もないような小さな会場でしたが、30名弱の参加者に手ごたえを感じるものとなりました。

様々な方への依頼や、準備及び練習は大変でしたが、私自身勉強になることが多く、楽しみながら行うことができました。終了後数日は気が抜けたようでしたが…（笑）。皆さまも是非、やってみようと思ったことを実践してみてはいかがでしょう。（千葉市在住）

南相馬出身の志賀泉さん『無情の神が舞い降りる』出版

二松學舎大学文学部卒業（昭和57年度・文51）で、太宰治賞受賞作家の志賀泉さんが、今年2月24日、震災小説『無情の神が舞い降りる』（筑摩書房）を新たに出版しました。

福島県南相馬市小高区出身の志賀さん、東日本大震災で大きな事故を引き起こした福島第一原子力発電所がある双葉町の双葉高校で青春時代を過ごしました。

震災後、志賀さんは記録映画「原発被災地になった故郷への旅」に出演。上映会や講演会等を通じ、被災地の現状報告を続け、この映画で映文連アワード2014「パソナル・ドキュメンタリー賞」他を受賞しています。

本書は、震災から6年経った今、



『無情の神が舞い降りる』筑摩書房（定価：本体1,600円＋税）



一ツ橋の如水会館で行われた『無情の神が舞い降りる』出版記念会で、想いを語る志賀さん

被災というのはすべて「個人」の経験だと語る志賀さんが、福島原発事故を後世に伝えるべく書き下ろした意欲作です。寝たきりの母と避難区域に留まった主人公が、誰一人いない町で封印された記憶をたどっていく表題作『無情の神が舞い降りる』と、避難先の学校でフクシマの映画を作ることになる17歳の女子高校生を描く『私のいない椅子』が収載されています。原発事故を体験したフクシマの「普通の人の暮らし」を描いたこの二作。書評家・瀧井朝世氏はPR誌『ちくま』3月号掲載の書評で「（主人公を）、被災者代表のように描くのではなく、替えの利かない個の生身の人間として作品の中に存在させていることが、非常に尊く、愛おしく思える。そこから、この震災で傷ついただろうたくさんの人たちの、個々の存在が感じられるのだから。」と記しています。（鈴木信子（文51））

(次頁より)

広報関係

○140周年キャッチコピー及びロゴマーク設定

創立140周年のキャッチコピー『いままでの140年これからの140年』及びロゴマークを設定しました。

○HP特設サイト設置

創立140周年にあたり、本学の周年事業に対する考え方や事業内容、イベント等を広く公開するためにホームページに特設サイトを開設しました。

○HPリニューアル

創立140周年にあたり、より見やすく、より分かりやすいホームページにリニューアルします。

○校舎ラッピング及びライトアップ

創立140周年を記念して、九段1号館のラッピング、及び九段1号館・2号館のライトアップを実施しました。

○オリジナルキャラクター記念撮影アプリ

オリジナルキャラクターと、学内でAR記念撮影等が可能なスマートフォンアプリを開発します。

○記念グッズ作成

140周年を記念し、本学で学んだ文豪・夏目漱石が描かれた千円札をモチーフとした『漱石タオル』を作成しました。

※『漱石タオル』は二松學舎サービス株式会社において販売しています。

また、寄付者向けのノベルティとして、オリジナルデザインの『VISA キャッシュ』を作成しています。

今後も、140周年記念の様々なオリジナルグッズを作成予定です。

○140周年記念広報

その他、創立140周年を記念した様々な広報を展開していきます。

記念イベント

○オリジナルキャラクター公募

本学で学んだ夏目漱石の代表作『吾輩は猫である』にちなみ、「ねこ」をモチーフにした「二松學舎オリジナルマスコットキャラクター」を学内で募集し、「ねこ松」に決定しました。決定したキャラクターは今後、立体化、各種PR媒体、グッズ開発等に使用していく予定です。



○二松學舎大学のお宝展（三省堂）

平成29年3月10日（金）から12日（日）、創立140周年記念事業の一環として制作された絵本『武士が活躍しはじめた、その頃のお話。』の出版を記念して、三省堂書店神保町本店8階展示スペースにおいて、「二松學舎大学のお宝展」を開催しました。講演会、本学が所蔵する奈良絵本や横溝正史関係資料などの貴重資料の展示、本学関係者の書籍・グッズ販売などを行いました。

○大学資料展示室『夏目漱石展』

本学が所蔵する文豪・夏目漱石に関連する資料を、大学資料展示室において公開します。

〔一般公開予定〕平成29年10月11日（水）～10月24日（火）

○大学資料展示室『貴重資料公開』

本学が所蔵する貴重資料を、大学資料展示室において公開します。

〔一般公開予定〕

平成29年	4月17日（月）～5月13日（土）	二松學舎コレクションⅠ	横溝正史の世界
	6月1日（木）～6月24日（土）	二松學舎コレクションⅡ	二松學舎に学んだ名士たち
	7月10日（月）～8月10日（木）	二松學舎コレクションⅢ	二松學舎の書道
	9月4日（月）～9月23日（土）	二松學舎コレクションⅣ	和本の世界 奈良絵本等
	11月13日（月）～11月25日（土）	二松學舎コレクションⅤ	大正天皇と二松學舎
	12月4日（月）～12月22日（金）	二松學舎コレクションⅥ	三島中洲と近代 其五
平成30年	1月22日（月）～2月17日（土）	二松學舎コレクションⅦ	文学散歩 作家の草稿
	3月1日（木）～3月17日（土）	二松學舎コレクションⅧ	新収コレクション



○『文芸コンクール』

これまで『漢詩コンクール』を平成18年から通算11回開催してきましたが、本年はこれを再編し、漢詩部門に書道、文芸（書評）の部門を新たに加え『文芸コンクール』として実施します。

○『論語の学校』

『論語の学校』は、平成17年から通算12回開催してきましたが、本年は140周年を記念して実施します。

○都市文化デザイン学科開設記念講演会

都市文化デザイン学科の開設を記念し、秋葉原に設置した「アキバラボ」において、新学科と結びつきのある実業界の方を講師に招いた、新学科学生対象の講演会をリレー形式で行う予定です。

○記念シンポジウム

創立140周年を記念した、SRF（私立大学戦略的基盤形成支援事業）関係シンポジウム、文学部シンポジウム、東アジア学術総合研究所シンポジウム等を企画しています。



二松學舎創立140周年記念事業

平成29年10月10日、本学は創立140周年を迎えます。これを記念して、次のような記念事業を策定しました。

特別事業

○長期ビジョン「N' 2030 Plan」の策定・公表

創立140周年記念式典での公表を目指し、外部環境の変化に対応した新たな長期プランを策定します。

○大学 学部・学科改編

〔文学部改編〕

平成29年度、文学部に都市文化デザイン学科を新設しました。

〔国際政治経済学部改編〕

平成30年度には、国際政治経済学部国際経営学科を開設予定です。

○附属高等学校 奨学金の拡充

平成30年度入試より、入学試験特待生制度を導入し、特待生、準特待生の人数を増加する等、奨学金を拡充します。

○夏目漱石アンドロイドの作成

夏目房之介氏、大阪大学大学院石黒研究室、朝日新聞社協力のもと、本学で学んだ文豪・夏目漱石のアンドロイドを作成しました。今後は、大学等で講義を行う等、先駆的で新発想の試みに挑戦していきます。

○松の植樹

創立140周年を記念して『二松學舎』の名前の由来となる二本の松を、公開空地に植樹しました。



記念式典・講演会

創立記念日の平成29年10月10日（火）に、九段1号館地下2階中洲記念講堂において、記念式典・講演会を実施します。

140周年記念募金

二松學舎大学、附属高等学校、附属柏中学校・高等学校の全ての設置校において、より実践的な教育への転換、海外留学を含む国際交流活動の推進、奨学制度の更なる充実を始めとした学生の支援等の改革を更に進めるため、平成28年度、平成29年度の2カ年に渡り「創立140周年記念募金」を実施します。

三島中洲墓参の会

本学創立者 三島中洲は、天保元年（1830年）12月9日に生まれ、大正8年（1919年）5月12日に逝去（90歳）し、本年は生誕187年、没後98年にあたります。「中洲忌」翌日の5月13日（土）、静岡県駿東郡小山町の「富士霊園」にて中洲師の墓参を行いました。



記念出版

○『明治10年からの大学ノート』

創設から今日まで脈々と伝わっている二松學舎の精神を、幅広い世代の人々に伝えるために刊行した小史『明治10年からの大学ノート』に、最新情報を盛り込んだ改訂版を刊行します。

○『武士が活躍しはじめた、その頃のお話。』

本学が所蔵している奈良絵本『保元物語』、『平治物語』は、現存しているものの中でも屈指の優品とされています。

これまでは、本学文学部で、この奈良絵本について共同研究を行ってきましたが、身近にある優れた文化遺産を子供たちに伝えるため、素朴な絵をそのままに、奈良絵本の雰囲気を持つ絵本を制作・出版しました。

○記念論文集

文学部、国際政治経済学部、東アジア学術総合研究所等で、創立140周年記念論文集を刊行する予定です。

○基礎ゼミノート

初年次導入教育である「基礎ゼミナール」において、全学統一的に使用するためのテキストを作成します。

二松學舎創立150周年史編纂

創立150周年に向けて、150周年史の編纂ワーキンググループを立ち上げ、10年計画で編纂を進めていきます。

(右頁へ➡)

第99回全国高校野球選手権大会（主催 朝日新聞社 日本高校野球連盟）
附属高校野球部 夏の甲子園 2度目の出場



2回戦 8月13日 対 秋田明桜高校
 3回戦 8月18日 対 香川三本松高校

第99回全国高等学校野球選手権大会が8月8日から行われ、附属高等学校野球部は東京大会決勝（7月29日神宮球場）で東海大高輪台高校を9対1で破り、2度目の甲子園出場を果たした。

松苓会本部では8月1日に三役会議を開催し、甲子園出場支援を協議、附属高校の支援委員会発起人に松苓

会長が加わり、支援募金に応ずることを決め、さらに、役員、支部長宛に文書で支援・協力を依頼した。

ホームカミングデー開催

期 日 平成29年11月4日（土）
 会 場 九段1号館
 作品展 10月30日～11月4日

卒業生名刺交換会開催

期 日 平成30年2月25日（土）
 会 場 ホテルグランドパレス

訃報

佐佐木鍾三郎顧問（専15）

平成29年9月19日逝去 享年94歳

佐佐木顧問は、昭和19年9月二松學舎専門学校を繰り上げ卒業の上、学徒出陣。復員後、昭和22年に母校に勤務。以後平成7年8月に退任するまで、二松學舎の教育研究、及び運営にたずさわられた。平成3年9月学校法人の理事長に就任。平成7年9月顧問。松苓会では、長年にわたり幹事・常任幹事を務められ、昭和63年幹事長。理事長職の時は相談役。理事長退任後、顧問に就任された。

手島茂樹教授

平成29年4月22日逝去 享年68歳

手島教授は、平成11年4月、本学に着任。国際政治経済学部長、大学院国際政治経済学研究科長や学校法人の評議員、理事を歴任された。

松苓会では、特別会員として平成15年から平成26年まで常任幹事を務められた。

毛塚優甫氏（文78 栃木県立大田原高校教諭）

平成29年3月27日逝去 享年29歳

氏は、3月27日、栃木県那須町のスキー場付近で生徒引率の冬山訓練中に、雪崩事故に会い逝去された。

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

表紙写真

松苓会報も新しくなって、校舎の写真を表紙としてお届けしていました。今回は、二松學舎のシンボルの松にしました。2号館前の庭に植えられた2本の松、これからの140年の二松學舎の歴史を、いえ、今後続く千年の年を経た二松學舎を見届けてくれるでしょう。

編集後記

松苓会報58号をお届けします。今回は総会や創立140周年事業の記事が中心となりました。それでも、名誉教授からの便りなど、85周年特集号の継続的な記事も掲載することが出来ました。教職員の思い出、組織の思い出、建物の思い出と、思い出話に花を添えられたらと思っています。今後、各支部の文学散歩記事などが載せられます。皆様のお出かけなどの参考になりましたらと思っています。これからも、いろいろな記事を書きたいと思っています。ご意見やご提案など賜れば幸いです。

二松學舎
松苓会報
No.58

創 刊 昭和62年12月1日
 発 行 平成29年9月25日
 編 集 二松學舎松苓会
 住 所 〒102-8336
 東京都千代田区三番町6-16
 電 話 03-3261-7408
 振替口座 00180-5-160343（郵便局払込取扱票）
 印 刷 ㈱サンセイ



二松學舎大学（松苓会）
 ホームページ
 松苓会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp
shourei@nishogakusha-u.ac.jp